

第 11 期活動報告 維持管理小委員会

1.小委員会の目的

本委員会は、社会インフラ施設に対するアセットマネジメント手法の適用に関する社会ニーズのもと、昨今のデジタル技術の動向を踏まえた「実践的なマネジメントシステム構築の必要性」を見据え、地下構造物のインフラマネジメントを行ううえで必要な「維持管理における点検、評価手法の実態」や「協調領域、競争領域を踏まえた新技術の動向」について調査分析することを目的とする。

また、維持管理の効率化・高度化、リスクマネジメント、人材育成のあり方についても整理するとともに、本委員会で得られた研究成果は、広く社会（主に地方都市）に外部発信する。

2. 研究内容

2.1 研究テーマ

- (1) 地下構造物における維持管理における点検、評価手法の実態
- (2) 協調領域、競争領域を踏まえた新技術の動向
- (3) 地下空間施設のインフラマネジメントのあり方

2.2 研究方針

(1)WG 活動

- ・道路トンネル WG：国/地方自治体/高速道路 維持管理の現状と課題（地域特性等）
- ・鉄道トンネル WG：JR/地下鉄 維持管理の現状と課題（シールドトンネル等）
- ・インフラ施設 WG：ガス/電力/地下街/下水道/通信
各インフラ企業者の組織マネジメント、技術基準の現状と課題、共通課題（近接影響等）の整理
- ・新技術 WG：調査・点検・検査手法/デジタル技術、協調領域、競争領域のあり方
- ・インフラマネジメント WG：地下空間施設のインフラマネジメントのあり方（管理の効率化・高度化、リスクマネジメント、人材育成）

(2)話題提供の実施

委員会開催時に、各委員に維持管理に関する最新トピックスを話題提供していただき、ディスカッションすることにより、トピックスの共有および知識の深度化を図る。なお、話題提供されたテーマは、維持管理セミナーにより外部発信することを基本とする。

(3)外部発信（維持管理セミナーの開催）

研究成果（話題提供のトピックスを含む）を、主に地方都市へ外部発信することを目的にセミナーを開催する。なお、開催頻度は 3 回/年度を目標とする。

2.3 研究スケジュール（3 か年）

活動内容／年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
1) 研究内容の検討（WG設置）	←→		
2) 研究課題の整理、研究活動	←→	←→	←→
3) 最終成果とりまとめ			←→

3.研究体制（委員長／幹事）

- 委員長：坂井康人（京都大学/阪神高速道路株式会社）
- 幹 事：道上剛幸（株式会社ケー・エフ・シー）
- 田中直樹（八千代エンジニアリング株式会社）
- 齋藤優貴（パシフィックコンサルタンツ株式会社）

以 上